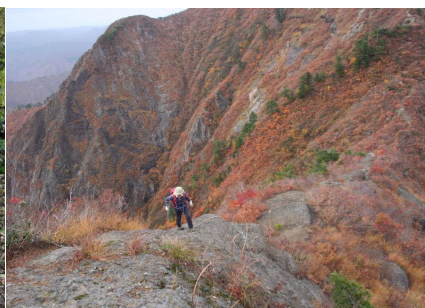


光明山山行記録



熊危険の登山口



岩稜の登り



紅葉

目的地	光明山	期 日	平成22年11月13日(土):曇り、一時薄日差す
山人	笠原正雄・笠原澄子	特 記	11年ぶりに歩く。標高879mだが、更に侮れない山になった。

地点名	時刻	記 事
与板発	午前6:05発	見附から田井、栃尾トンネル、梨ノ木トンネルと進み、八木ヶ鼻に出る。下田に入ると雨が降ったらしく道が濡れていた。
笠掘ダム駐車場	7:40 歩き出し	登山口の路側に一台とダム駐車場に一台あった。弁当朝食ののち歩き出す時に後続の男性隊がやって来た。
登山口	7:45	標柱の脇に看板がある。「熊出没中・危険・登山等はお控え下さい」(左写真)。登山届ポストのノートに名前を記入する。
コケ採りと逢う	8:15	少々朝もやの中、ひんやりするが、汗ばんで来た。男1人と言葉を交わす。登路は落葉に覆われていて、地面が見えない。そして、その下の石も見えなくて歩き難い道が続く。
垂直ロープ	8:40	えぐられた道にロープが下げられている。そのまま垂直に枝につかまりながら上ったが、上から見れば右に道があった。この先、岩場の斜面が連続し、なかなか気が抜けない。後続の男3人隊に追い越される。
満清水	8:50	道脇斜面の穴に水が滴り出ている。引水パイプとコップがあるが、水は細い。
ガバ井戸	9:05	右に小広場。大日蔭とあるが、何にも無い。
山の神(5合目)	9:25	杉の大木の下に広場と祠。
6合目	9:50	右手に大きく守門岳が見えている。少し雲が掛かるが、上部に雪が着いている。
前光明山(万之助)	9:55~10:05	左に上がって休む。三角点あり。薄日が出始めて来た。笠掘ダムを見下ろす。
フイゴの立負	10:30	鞍部から登りとなり、岩に挟まれた登路を登る。この後、登降に岩稜が現れる。
大日如来石柱	10:45	「光明山安全登山祈願塔」(8合目)。左に下りるトラバースの道を見過ぎて直進した。ピークの先には道が無い。戻って修正する。
笠掘砥石中継小屋	11:05	石柱に刻まれた文字を読む。
光明山山頂	11:25	廻り込んで標柱前が出るが、以前は直進で山頂だったと思う。頂には先着男2人と、少し東に下がった所に追い越された男3人が居た。山頂下で、頂に薄く雪をまとった矢筈岳を正面にして腰を降ろす。青里~栗と左に連なる。すぐ対岸はコマアナ山。日差しが出てきて暖かくなり、気分の良い時を過ごす。
下山へ	12:30	他に数人が上って来ていた。下り始めると更に若者数人隊が上って来た。
大日如来石柱	午後1:07	日差しを受けて暑くなり、ベストを脱ぐ。
前光明上り口	1:15	登りの時間との差は僅か5分しかない。
山の神(5合目)	2:10	登りの時より岩が乾いてきて幾分歩き易くなった。
満清水	2:40	小さな標柱の文字はかすれていて「満」と読めなくて「岩」に見えた。
笠掘ダム駐車場	3:45着	下山終盤になるに連れて、登路の濡れ具合や落葉は朝と同じく湿気を帯びたままになる。予報では午後は晴れ間が広がるようになっていたが、期待したほどの青空とはならなかった。ダムの見物客が数人歩いていた。

先週あたりから寒気の入る日があり、1,000m超の山の登路にはみぞれや雪が残っているだろうと思い、この山に向かうことにした。

11年前に、ごく一部残雪を踏んだ春先と秋に2度歩いている。その時の印象は長いには長い、一部を除けばそれ程難しい登路ではなかったとの記憶である。ところが、今回は様子が違っていた。登路の大半が斜めになっていて、特に岩が斜めに露出するヘツリの道の連続もあり、なおお且つ朝露で濡れていたため、滑りやすくなかなかの緊張を強いられた。帰宅後、三条市のホームページを見ると、平成16年の豪雨で登路が洗掘されて歩きにくく注意せよ。更に「岩場などについているトラロープは劣化していて危険だからつかまるな」と赤字で注意喚起がなされている。そのせいかどうかは分からないが、この頃はどこの山でも中高年女性が多いが、本日の入山者20名程度中、女性は妻のみだった。